

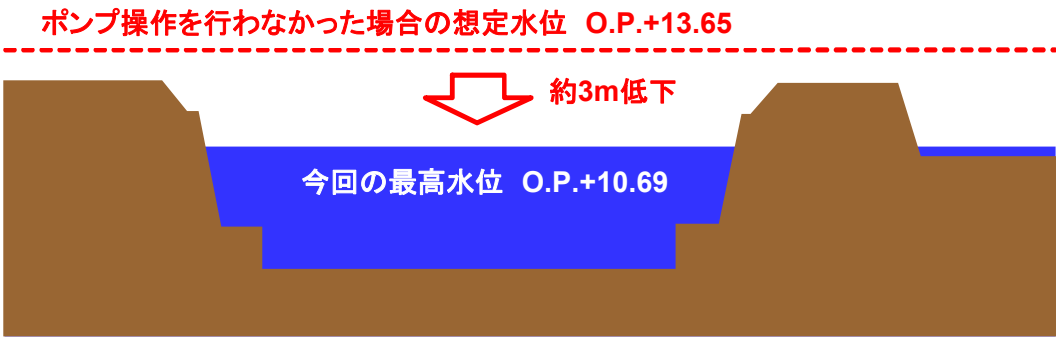
○久御山排水機場では、平成29年10月22日14時～23日6時にかけて、沿川での浸水被害発生に備えて、ポンプを操作・運転し、**総排水量200万m³の内水**を排出。

■久御山排水機場の位置・全景



■古川の水位低減効果

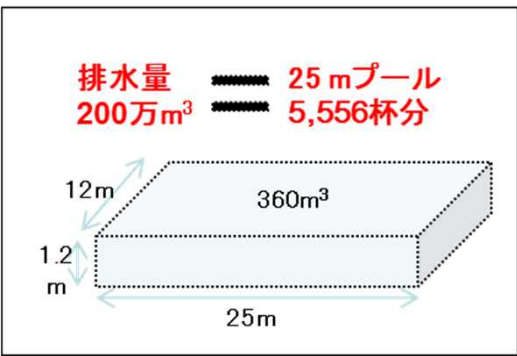
今回のポンプの稼働により、**総排水量200万m³の内水**を排出し、古川の水位が**約3m低下**、浸水面積が**約329ha減少**



■久御山排水機場の役割

久御山排水機場は、巨椋池地区の内水排除計画の策定に伴って巨椋池排水機場に隣接して新設され、昭和48年度に30.0m³/sのポンプ1台が設置されて稼働を開始しました。その後、昭和62年度には30.0m³/sのポンプ1台が増設、平成4年6月にも30.0m³/sのポンプ1台が増設され、**合計排水能力90.0m³/s**の排水機場として現在に至っています。昭和48年度から稼働している久御山排水機場は、完成からすでに**40年以上経過**しています。久御山排水機場は、宇治川洪水の古川への逆流を防止するとともに、古川の流水を宇治川へ排水することで、久御山町内の沿川での浸水被害を軽減する役割を担っています。

ポンプが無かった場合の浸水被害



※速報値であり、今後変わる場合があります。